

11 「人類の未来」

3月11日、東日本大震災が起きた。

地震は自然災害、原発事故は地震が引き金となった人災であり、多くのことを示唆しているように思う。

これらに関したことを、地球や自然の側から見るとどうなるだろうか。

人間は地球温暖化に危機感を持っているが、地球の方はまったくそんなことは関係ない。

人は何でも自分たち中心に考えるが、地球は人を多くの生物の中の1つとしか見ていない。

人の経済活動が地球に影響を及ぼしているといっても、その影響を受け最も痛い思いをするのは他ならぬ人間だ。生物は自然の摂理に従って、強いものが生き残っていくはずである。地球は痛くも痒くもない。

人は地球の歴史の中で、直近の氷河期が終わり温暖期になった以降に繁栄し、まだほんのわずかな期間を占めているに過ぎない。地球の歴史を1年とすれば、人類は12月31日11時37分に出現したことになるという。

ただ、人間以外の生物は地球の為すがままに進化してきたが、人間だけは少し違う。自然を変える能力を身に着けているのだ。

例えば核兵器を作ることのできる原子核技術、そして遺伝子操作を可能とする生命科学である。

これらの技術の使い方を誤ることで泣くのは、やはり人間である。

原子核技術は、核兵器で米ソ間のキューバ危機をもたらし、人類滅亡の危機を招いた。

地球誕生とともに存在していた元素は、他の天体からもたらされたものといわれている。その原子核を強制的に分裂させることで、莫大なエネルギーを取り出すことができるが、そういうことは自然に沿わないことであり、やってはならないことだったのではないだろうか。

生命科学は遺伝子組み換えにより、自然界に存在しない新しい生命や、人間にとって都合のよい植物などを作り出すことができる。

京都大学の山中教授が見出したES細胞は、あらゆる臓器を作れる万能細胞となりうる夢の細胞といわれる。“金儲け”のために利用されるという傾向が強い生命科学であるが、山中教授は事業化はしないと断言しているのは救いではある。

しかし、ES細胞は人が思っているような都合よいものなのだろうか？ どうも大きな落とし穴があるような気がしてならない。一見夢の技術のように見えるが、生命倫理に踏み込む禁断の技術といえないだろうか？ 例えば、遺伝的な影響の可能性はないのか？ 一つ間違えると人類に大きな影響を及ぼしかねない、ということも充分承知していなければならない。

共通しているのは自然の摂理に逆らうことをすると、人間も自然の一部であるから何らかの反動が来るとのことである。

地球もいいタイミングで警告を発している。忘れたころ、大きな自然災害や人的災害に襲われているのではないかと。できることと、やってよいことは自ずと異なる。

地球環境というが、人間にとっての住みやすく都合のいい環境というだけで、地球は別に関係ない。地球が泣いているというがそんなことはない、泣くのは人のほうだ。

いつか人類が絶滅すれば、自然の浄化作用によりそのときの条件に従った環境が作られるのだ。

たとえ核戦争があったとしても放射能の影響はせいぜい数百年、いずれ消えてしまう。

地球の寿命からすればほんの瞬間に過ぎない。人類は滅亡しているかもしれないが、その時その環境に適応した生物だけが生き残っていくのである。

20世紀は収奪の世紀であった。「人が自然から」「北が南から」「世代間から」奪う。

21世紀は「環境」「エネルギー」「食糧」そして「宗教」の世紀とも言われる。この言葉を、「心」を大切に、「エネルギー」「食糧」を儲けの対象と考えず公平に分配し、環境を人のための環境と勘違いしないで捉えることができれば、まだ人類に未来はあるだろう。

人間がこれまでより、客観的に自分たちを観ることができるようになり、自分だけがいい思いをしようとすることは、結局自分たちを滅ぼすことにつながることを知り、謙虚であろうという“知恵”が必要なのだ。(2011.04.11)